

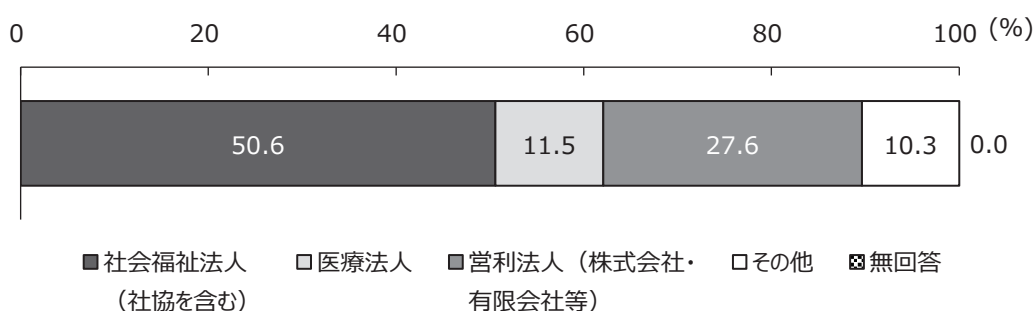
## 第4章 在宅生活改善調査

### 1 事業所について

#### (1) 法人等のタイプ

n=87

「社会福祉法人（社協を含む）」が50.6%と最も高く、次いで「営利法人（株式会社・有限会社等）」（27.6%）、「医療法人」（11.5%）の順に高くなっています。



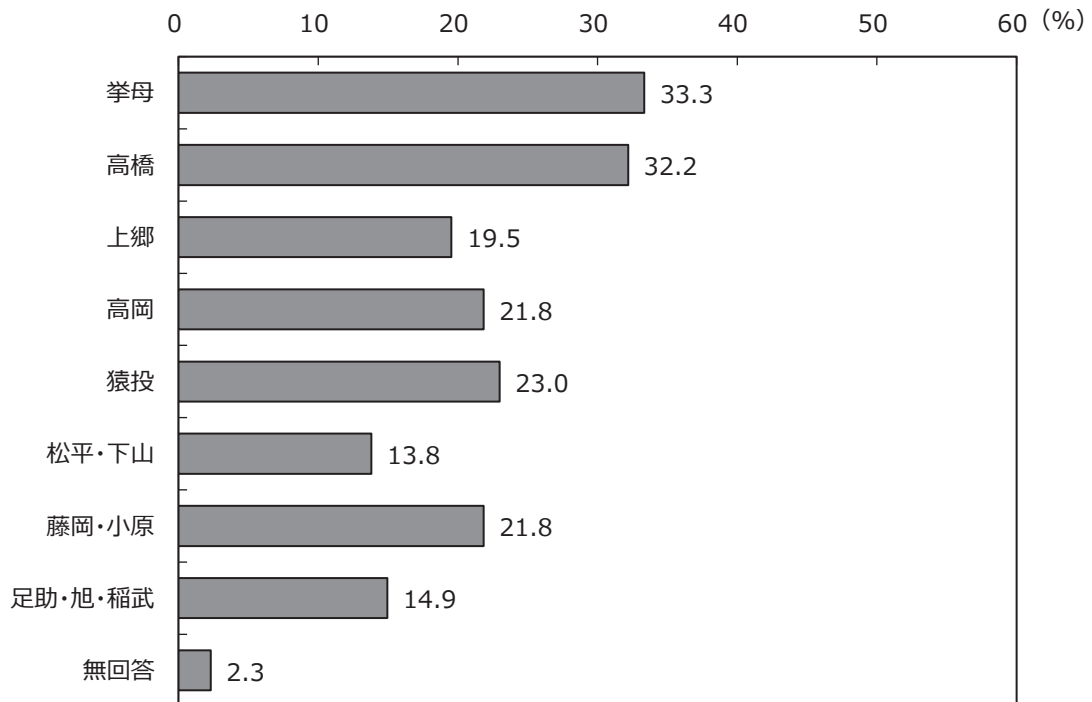
単位：%

	n	社会福祉法人 (社協を含む)	医療法人	営利法人 (株式会社・有限会社等)	その他	無回答
拳母	29	24.1	10.3	48.3	17.2	0.0
高橋	28	42.9	7.1	46.4	3.6	0.0
上郷	17	29.4	23.5	47.1	0.0	0.0
高岡	19	57.9	5.3	31.6	5.3	0.0
猿投	20	45.0	20.0	35.0	0.0	0.0
松平・下山	12	41.7	8.3	50.0	0.0	0.0
藤岡・小原	19	36.8	21.1	42.1	0.0	0.0
足助・旭・稲武	13	46.2	7.7	30.8	15.4	0.0

(2) 主な担当地区

n=87

「拳母」(33.3%)、「高橋」(32.2%)、「猿投」(23.0%) の順に高くなっています。



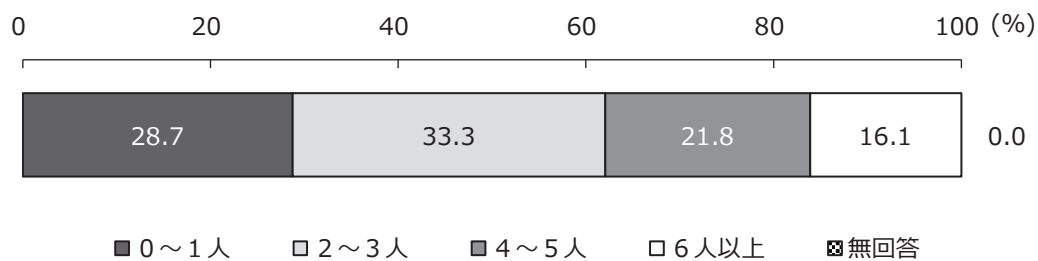
### (3) ケアマネジャー、利用者の人数

■ 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。

#### ①所属するケアマネジャーの人数

n=87

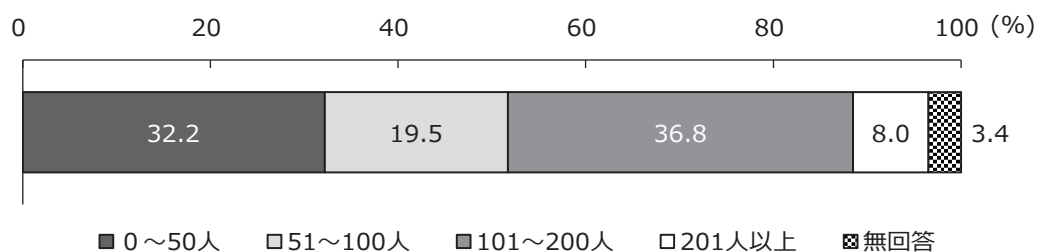
「2～3人」が33.3%と最も高く、次いで「0～1人」(28.7%)、「4～5人」(21.8%)の順に高くなっています。



#### ②「自宅等」にお住まいの利用者数

n=87

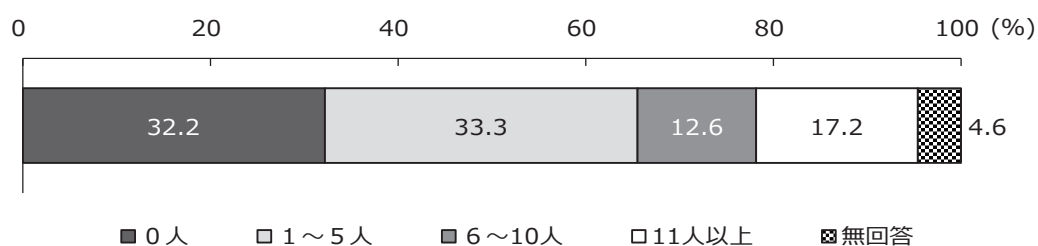
「101～200人」が36.8%と最も高く、次いで「0～50人」(32.2%)、「51～100人」(19.5%)の順に高くなっています。



#### ③「サービス付き高齢者向け住宅」・「住宅型有料老人ホーム」・「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数

n=87

「1～5人」が33.3%と最も高く、次いで「0人」(32.2%)、「11人以上」(17.2%)の順に高くなっています。



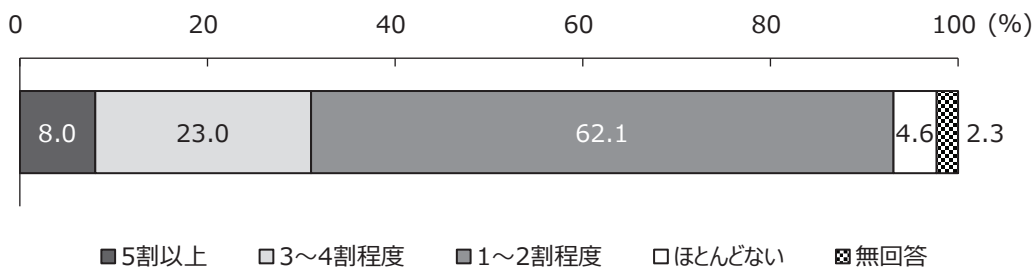
(4) 利用者の状況

■ 貴事業所の利用者について、次の①から③まで教えてください。(それぞれ○は1つ)

①「介護保険サービス以外」(配食、生活支援等)の支援・サービスを利用している割合 \*延長デイや限度額以上の利用などは除く

n=87

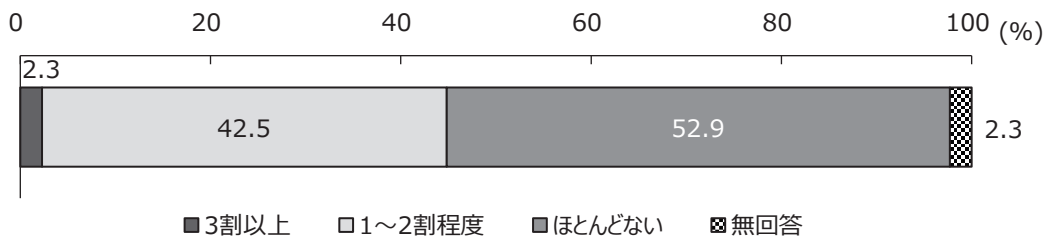
「1~2割程度」が「62.1%」と最も高く、次いで「3~4割程度」(23.0%)、「5割以上」(8.0%)の順に高くなっています。



②地域住民の助け合いや見守り、ボランティア団体による支援などを利用している割合

n=87

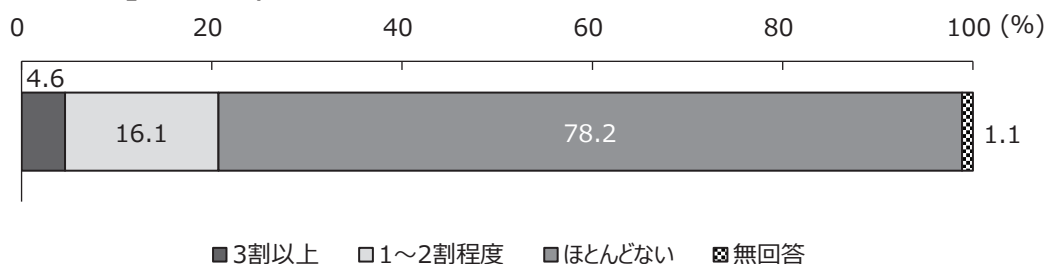
「ほとんどない」が52.9%と最も高く、次いで「1~2割程度」(42.5%)、「3割以上」(2.3%)の順に高くなっています。



③ACP (アドバンス・ケア・プランニング)に取り組んでいる利用者の割合

n=87

「ほとんどない」が78.2%と最も高く、次いで「1~2割程度」(16.1%)、「3割以上」(4.6%)の順に高くなっています。



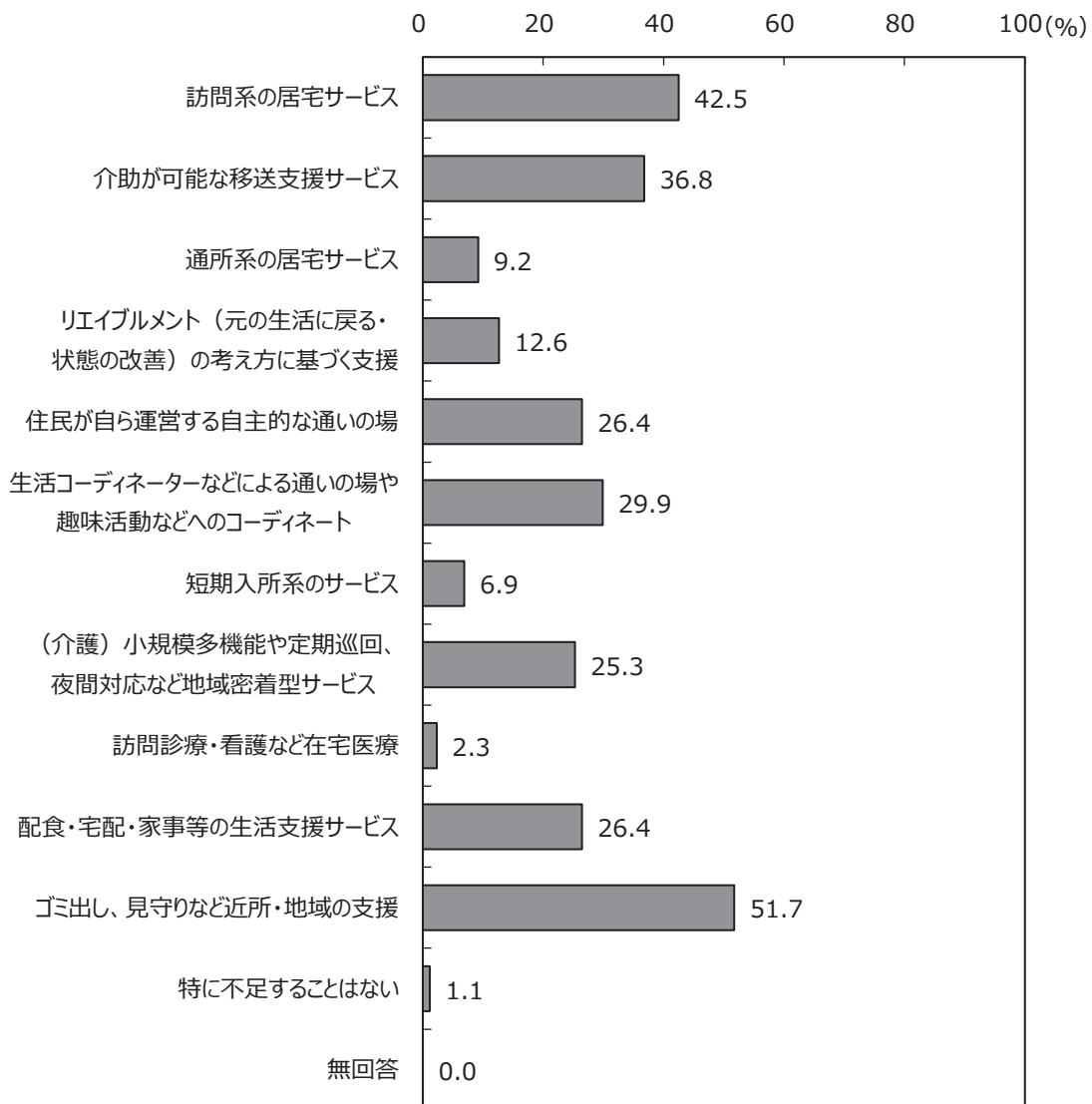
## (5) ケアプラン作成におけるニーズ

- 在宅介護において、ケアプラン作成でどのようなサービスや支援が特に不足していると感じますか。(○は3つまで)

\* 選択肢のサービスが不足していると感じていても、他のサービス等で代替できる場合は、不足していないとお考えください。

n=87

「ゴミ出し、見守りなど近所・地域の支援」が 51.7%と最も高く、次いで「訪問系の居宅サービス」(42.5%)、「介助が可能な移送支援サービス」(36.8%)の順に高くなっています。



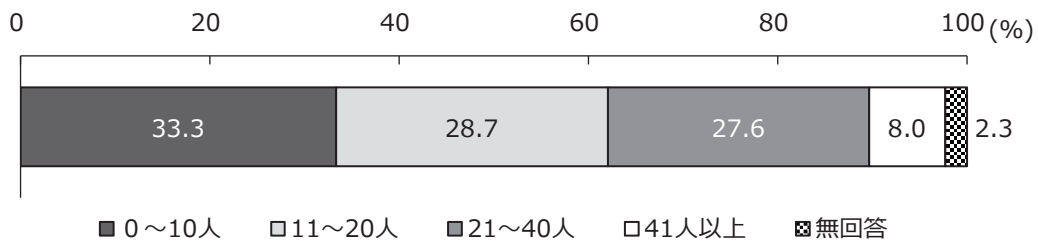
(6) 訪問介護の利用状況

■ 貴事業所の要介護者の訪問介護の利用状況はいかがですか。人数をご記入ください。

①訪問介護を利用している人、利用が必要な人の合計

n=87

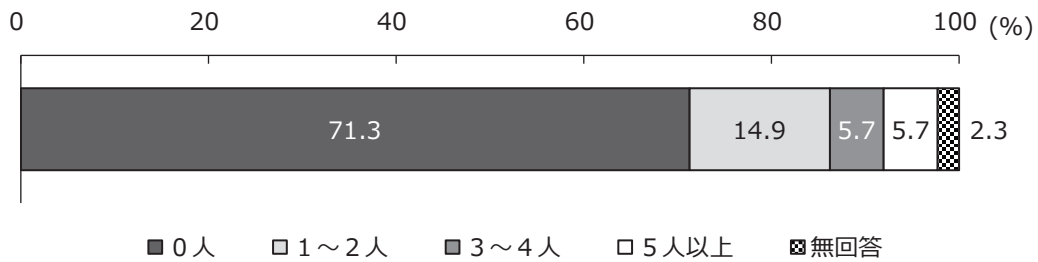
「0～10人」が33.3%と最も高く、次いで「11～20人」(28.7%)、「21～40人」(27.6%)の順に高くなっています。



②そのうち、訪問介護事業所側の業務多忙・人手不足を理由に訪問介護の利用回数を減らしている人・利用できない人

n=87

「0人」が71.3%と最も高く、次いで「1～2人」(14.9%)の順に高くなっています。利用回数を減らしている人・利用できない人は推計値で87人です。



	推計人数*	(回答数)
総数	87人	68人

\*回答数を回答率で割り戻しています。

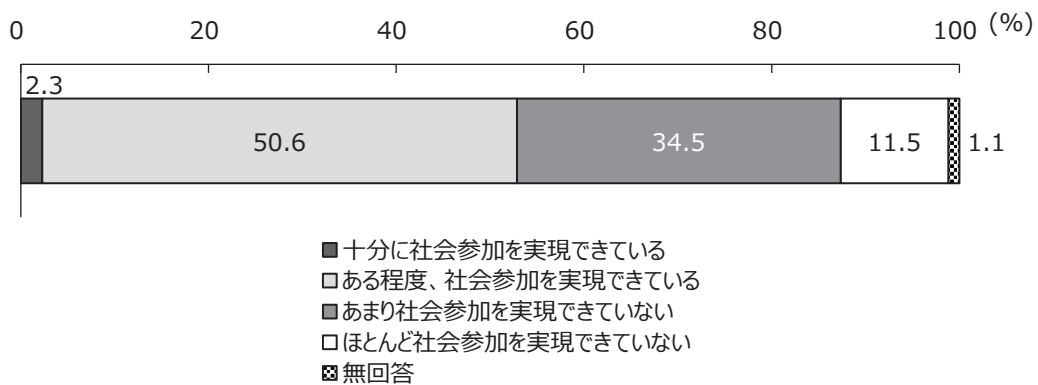
(7) 社会参加の実現について

■ ケアプランの PDCA をまわしていくことを通じて、介護保険サービス・介護保険サービス外にかかわらず、本人の社会参加\*を実現することができますか。(○は1つ)

\*デイサービス利用者どうしの交流、近所や趣味等の付き合い、その他家族以外の人と接する機会

n=87

「ある程度、社会参加を実現できている」が 50.6%と最も高く、次いで「あまり社会参加を実現できていない」(34.5%)、「ほとんど社会参加を実現できていない」(11.5%)の順に高くなっています。

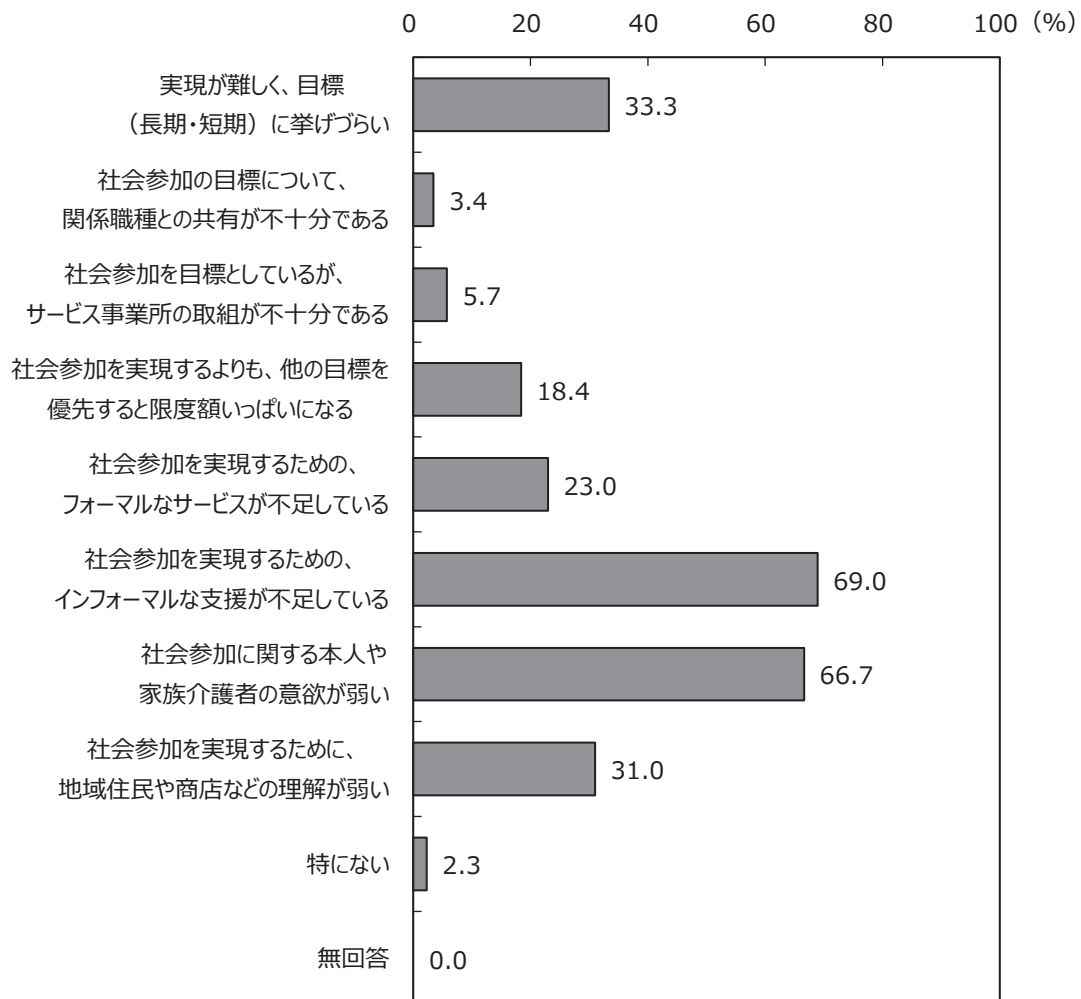


(8) 社会参加実現に向けた課題

■ ケアプランを作成するうえで、本人の社会参加について、特にどのような課題がありますか。(〇は3つまで)

n=87

「社会参加を実現するための、インフォーマルな支援が不足している」が69.0%と最も高く、次いで「社会参加に関する本人や家族介護者の意欲が弱い」(66.7%)、「実現が難しく、目標(長期・短期)に挙げづらい」(33.3%)の順に高くなっています。



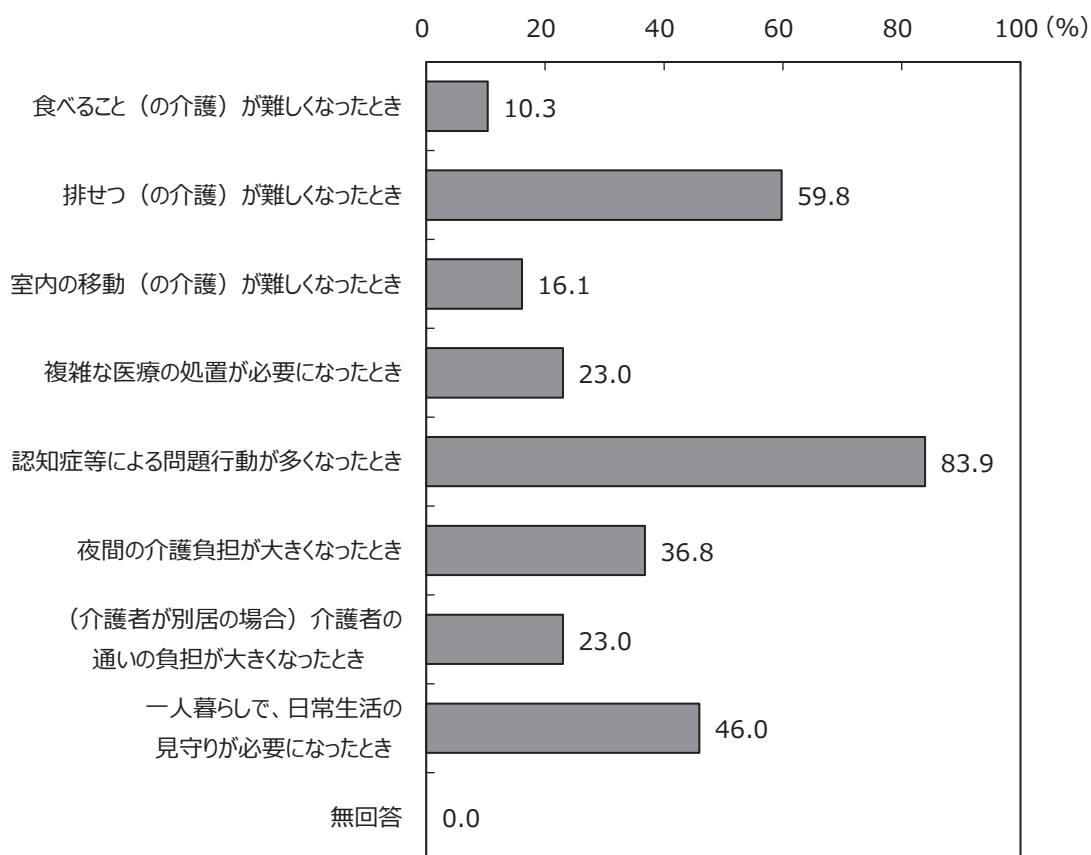
## 2 高齢者福祉等について

### (1) 自宅介護を断念する主な理由

■ ご本人や家族等が特に、どのようなことで自宅での介護を断念し施設等へ入所することになるとお考えですか。(○は3つまで)

n=87

「認知症等による問題行動が多くなったとき」が83.9%と最も高く、次いで「排せつ（の介護）が難しくなったとき」（59.8%）、「一人暮らしで、日常生活の見守りが必要になったとき」（46.0%）の順に高くなっています。

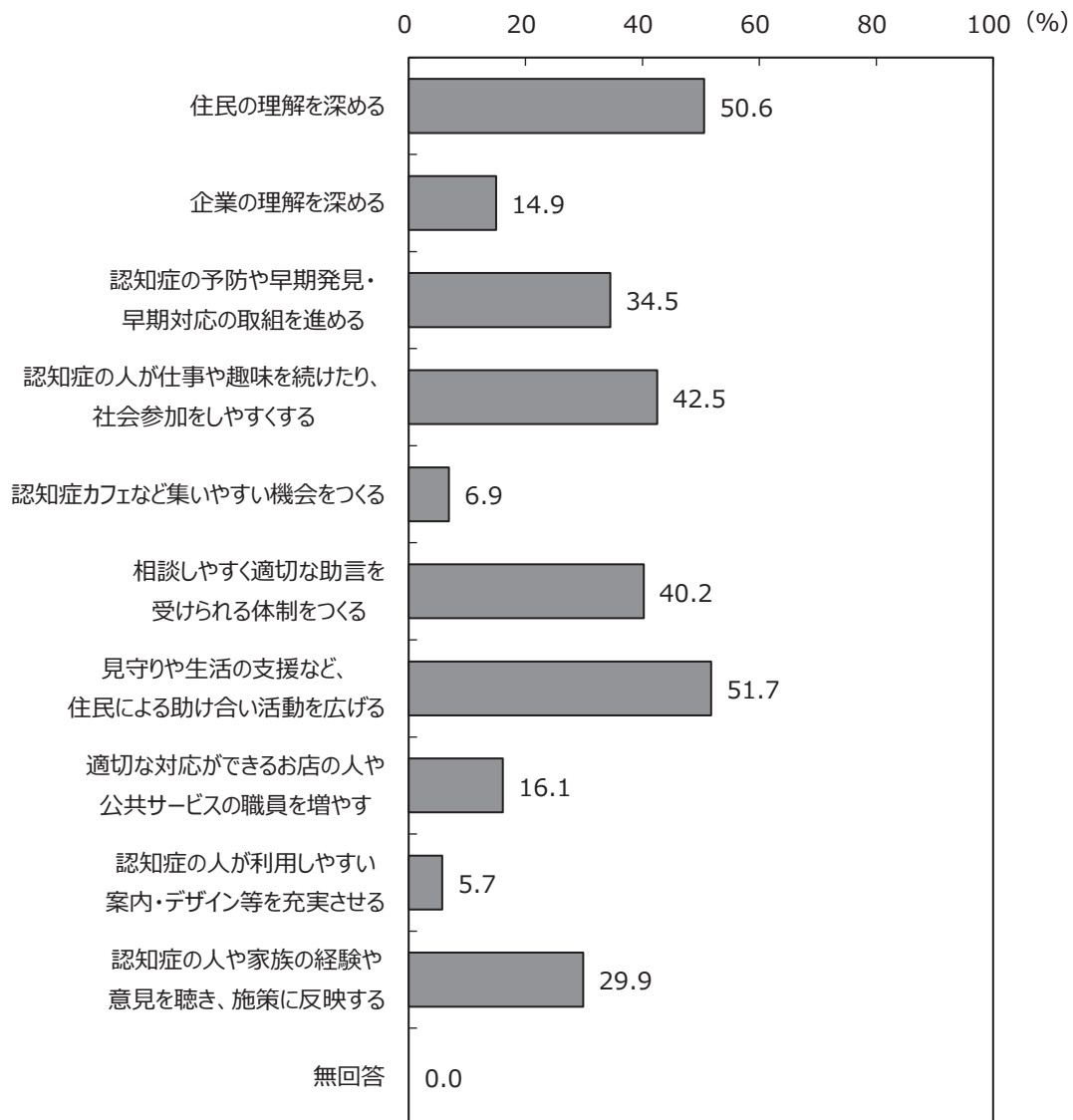


(2) 認知症の人と家族への支援に必要な取り組み

■ 認知症の人とその家族が安心して暮らせる社会をつくるために、どのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇は3つまで)

n=87

「見守りや生活の支援など、住民による助け合い活動を広げる」が51.7%と最も高く、次いで「住民の理解を深める」(50.6%)、「認知症の人が仕事や趣味を続けたり、社会参加をしやすくする」(42.5%)の順に高くなっています。



### 3 自宅等から居場所を変更した利用者について

#### (1) 要介護度別の人数

■ 貴事業所において、過去1年（令和6年10月1日～令和7年9月30日）の間に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した要介護度別の利用者数」と「自宅等で死亡した利用者数」をご記入ください。（人数を記入）

\* 入院後に自宅等に戻った方、現在一時的に入院中の方は含めないでください。

\* 病院等への搬送後に死亡した場合、搬送先で死亡したケースは「自宅等での死亡」、搬送先から転院等の後に死亡したケースは「自宅等から、居場所を変更した利用者」に含めてください。

過去1年間における、「自宅等から、居場所を変更した要介護度別の利用者数」、および、「自宅等で死亡した利用者数」のそれぞれの合計は下記表の通りです。

単位：人

自宅等から、居場所を変更した利用者								自宅等での死亡	合計
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明		
21	49	194	173	168	193	122	26	464	1,410

(2) 行先別の人数

■ 貴事業所において、過去1年間（令和6年10月1日～令和7年9月30日）の間に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した利用者数」を行先別にご記入ください。（人数を記入）

\* 入院した後に自宅等以外の居場所に移った場合は、退院後の居場所をご記入ください。

\* 搬送後、搬送先から転院等の後に死亡した場合は、死亡ではなく「居所変更」として、該当する行先にカウントしてください。

過去1年間における、「自宅等から、居場所を変更した利用者数」の行き先別の合計は下記表の通りです。

単位：人

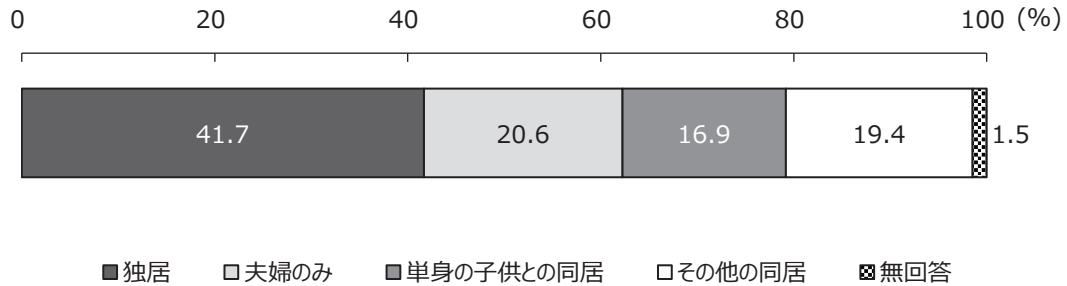
行先	豊田市内	豊田市外
兄弟・子ども・親戚等の家	13	11
住宅型有料老人ホーム	161	26
軽費老人ホーム（特定施設除く）	8	1
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	39	11
グループホーム	61	5
特定施設	34	1
地域密着型特定施設		0
介護老人保健施設	167	30
介護医療院	14	0
特別養護老人ホーム	123	4
地域密着型特別養護老人ホーム	16	0
病院・診療所（一時的な入院を除く）	161	13
その他	11	5
行先を把握していない	31	
自宅等での死亡（搬送先での死亡を含む）	464	
合計	1,410	

## 4 在宅生活の維持が難しくなっている利用者について

### (1) 世帯類型

n=408

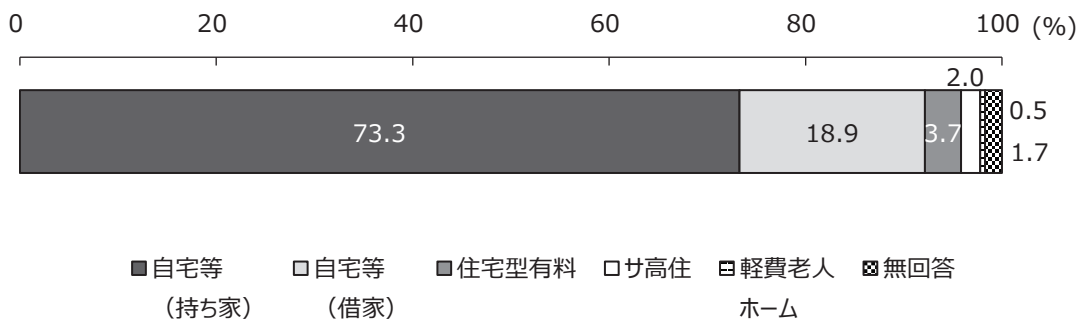
「独居」が41.7%と最も高く、次いで「夫婦のみ」(20.6%)、「その他の同居」(19.4%)の順に高くなっています。



### (2) 現在の居所

n=408

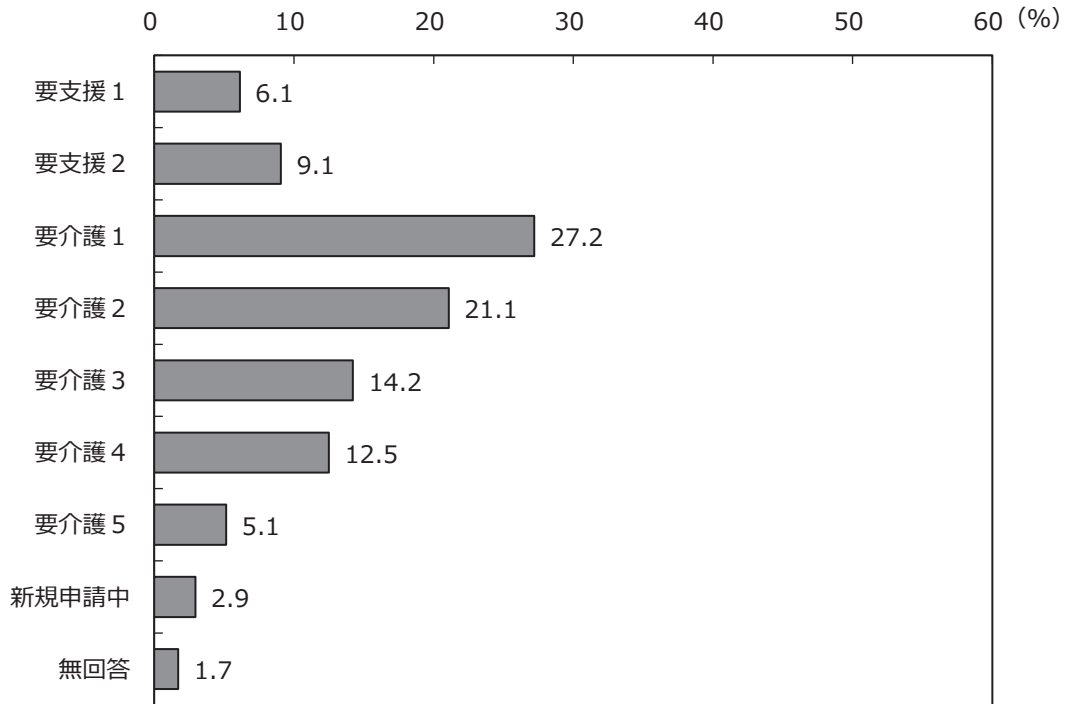
「自宅等(持ち家)」が73.3%と最も高く、次いで「自宅等(借家)」(18.9%)、「住宅型有料」(3.7%)の順に高くなっています。



(3) 要支援・要介護度

n=408

「要介護度1」が27.2%と最も高く、次いで「要介護度2」(21.1%)、「要介護度3」(14.2%)の順に高くなっています。



(4) 在宅での生活が難しくなっている利用者の属性

人数の多い類型から順に、「独居—自宅(持ち家等)—要介護2以下」(19.6%)、「独居—自宅(借家)—要介護2以下」(10.3%)、「夫婦のみ世帯—自宅(持ち家等)—要介護2以下」(9.3%) となっています。

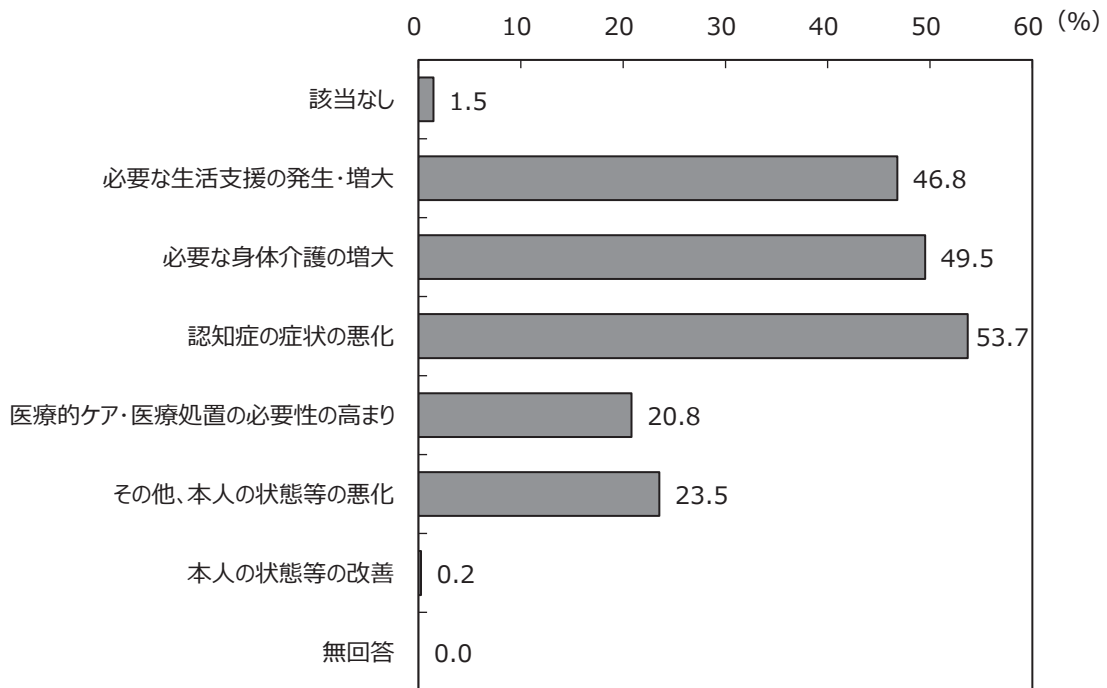
類型	回答数	割合	世帯類型				居所			要介護度	
			独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	自宅等(持ち家)	自宅等(借家)	サ高住・軽費住宅型有	要介護2以下	要介護3以上
1	80	19.6%	★				★			★	
2	42	10.3%	★					★		★	
3	38	9.3%		★			★			★	
4	37	9.1%				★	★			★	
5	33	8.1%				★	★				★
6	32	7.8%			★		★			★	
7	29	7.1%		★			★				★
8	24	5.9%			★		★				★
9	16	3.9%	★				★				★
10	10	2.5%	★						★	★	
11	7	1.7%	★					★			★
12	7	1.7%	★						★		★
13	7	1.7%		★				★		★	
14	6	1.5%			★			★		★	
15	4	1.0%		★				★			★
16	4	1.0%			★			★			★
17	3	0.7%				★		★		★	
18	2	0.5%		★					★		★
19	2	0.5%				★			★		★
20	1	0.2%		★					★	★	
21	1	0.2%				★		★			★
22	1	0.2%				★			★	★	
23	0	0.0%			★				★	★	
24	0	0.0%			★				★		★
その他	22	5.4%									
合計	408	100.0%									

(5) 在宅生活の維持が難しくなっている理由（本人の状態等）

■ 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由についてお答えください。本人の状態等に属する理由について、お答えください。

n=408

「認知症の症状の悪化」が53.7%と最も高く、次いで「必要な身体介護の増大」(49.5%)、「必要な生活支援の発生・増大」(46.8%)の順に高くなっています。

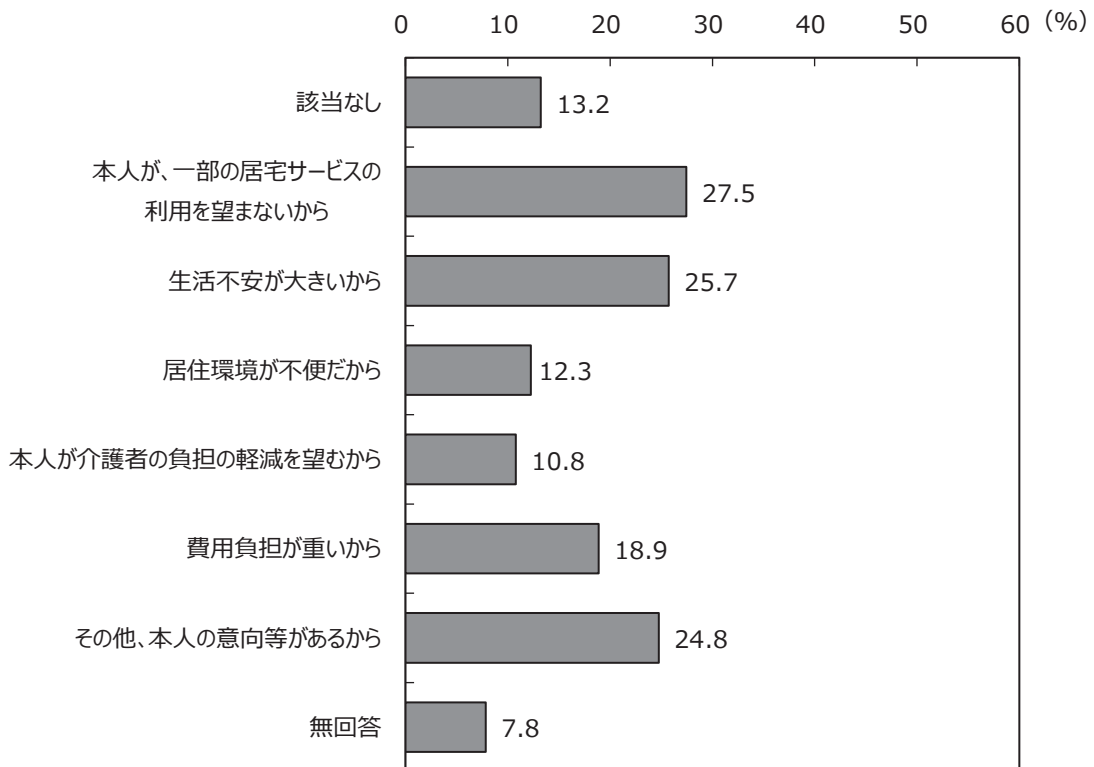


(6) 在宅生活の維持が難しくなっている理由（本人の意向等）

■ 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由についてお答えください。本人の意向等に属する理由について、お答えください。

n=408

「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」が27.5%と最も高く、次いで「生活不安が大きいから」(25.7%)、「その他、本人の意向等があるから」(24.8%)の順に高くなっています。

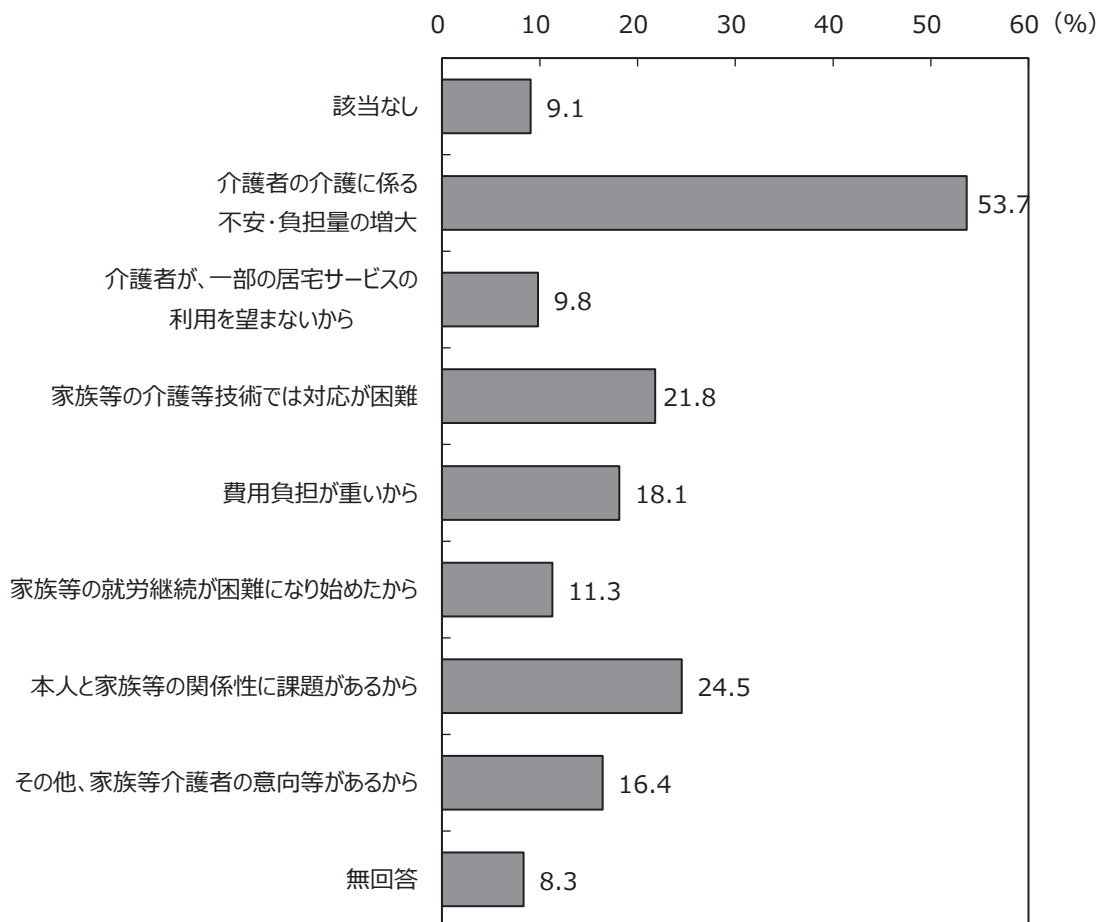


(7) 在宅生活の維持が難しくなっている理由（家族等介護者の意向・負担等）

■ 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由についてお答えください。家族等介護者の意向・負担等に属する理由について、お答えください。

n=408

「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が53.7%と最も高く、次いで「本人と家族等の関係性に課題があるから」(24.5%)、「家族等の介護等技術では対応が困難」(21.8%)の順に高くなっています。

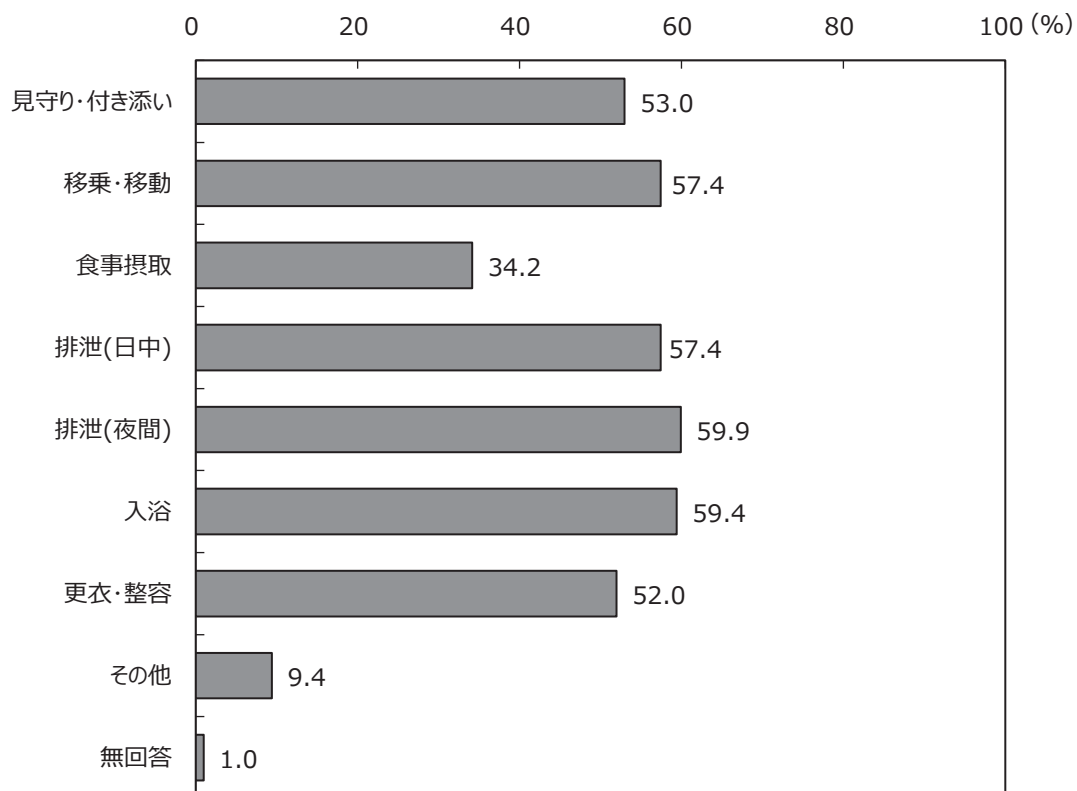


## (8) 難しい身体介護の内容

■ 在宅生活の維持が難しくなっている理由となる、具体的な「身体介護」をお答えください

「必要な身体介護の増大」が理由の人 n=202

「排泄（夜間）」（59.9%）、「入浴」（59.4%）、「移乗・移動」（57.4%）、「排泄（日中）」（57.4%）の順に高くなっています。

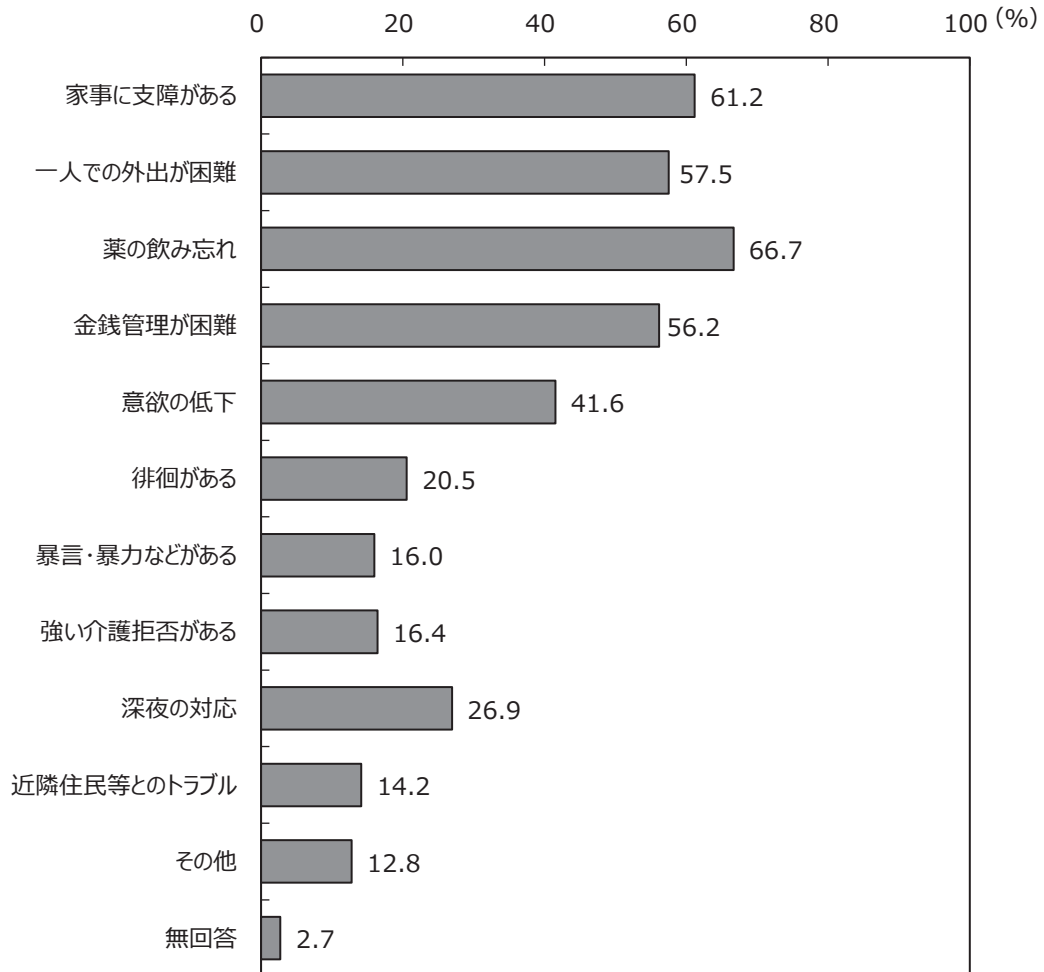


(9) 難しい認知症の症状

■ 在宅生活の維持が難しくなっている理由となる、具体的な「認知症の症状」をお答えください

「認知症の症状の悪化」が理由の人 n=219

「薬の飲み忘れ」が66.7%と最も高く、次いで「家事に支障がある」(61.2%)、「一人での外出が困難」(57.5%)の順に高くなっています。

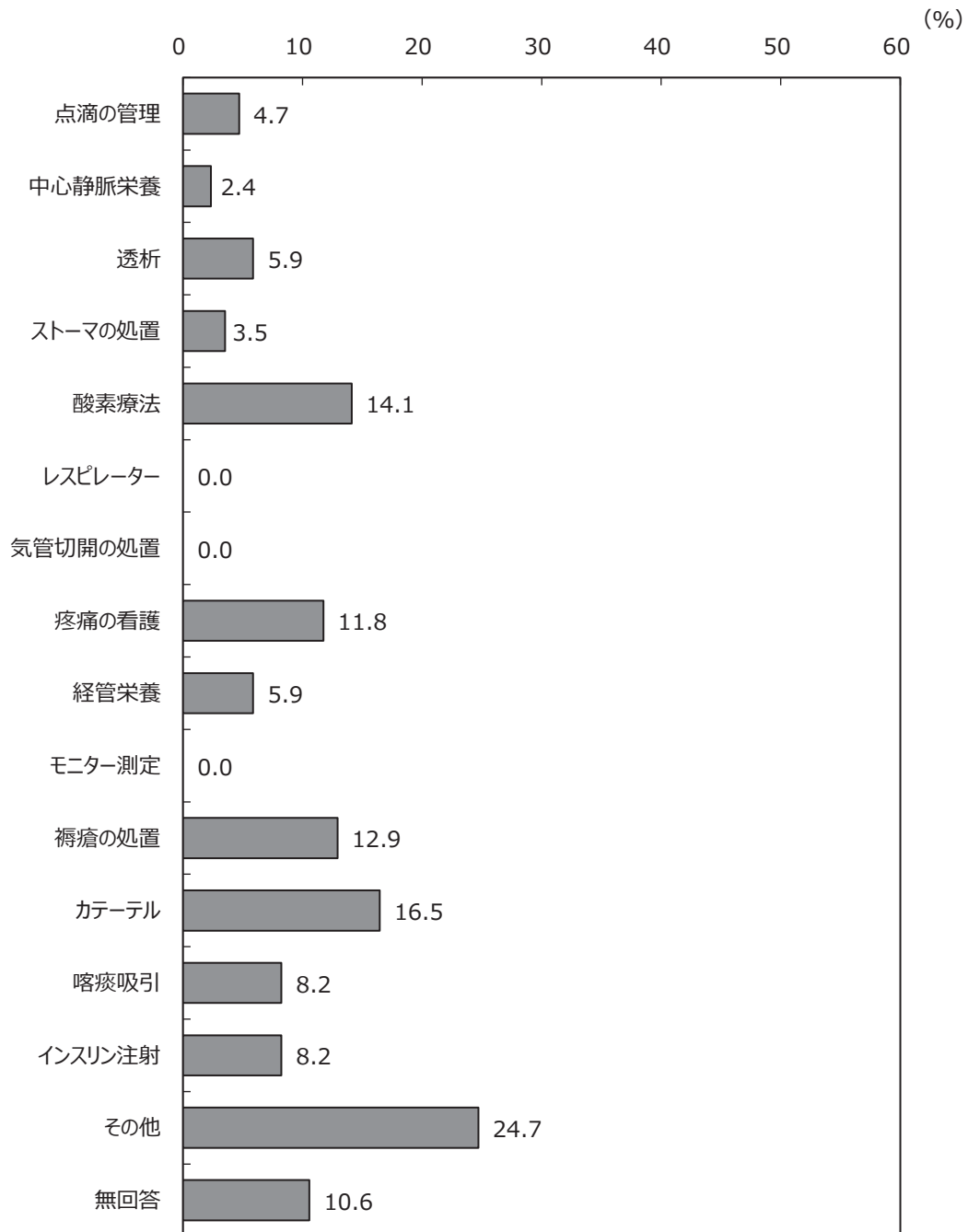


(10) 難しい医療的ケア、医療処置の内容

- 在宅生活の維持が難しくなっている理由となる、具体的な「医療的ケア」、「医療処置」をお答えください

「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が理由の人 n=85

「その他」が 24.7%と最も高く、次いで「カテーテル」(16.5%)、「酸素療法」(14.1%) の順に高くなっています。

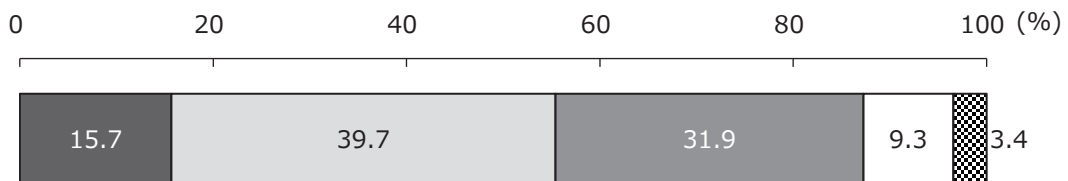


(11) 現状を改善できると思うサービス

■ 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況に対して、どのようなサービスに変更することで改善できると思いますか。

n=408

「より適切な「住まい・施設等」に変更する」が39.7%と最も高く、次いで「より適切な「在宅サービス」もしくは「住まい・施設等」に変更する」(31.9%)、「より適切な「在宅サービス」に変更する」(15.7%)の順に高くなっています。



- より適切な「在宅サービス」に変更する
- より適切な「住まい・施設等」に変更する
- より適切な「在宅サービス」もしくは「住まい・施設等」に変更する
- サービス変更では改善は難しいと思う
- ▨ 無回答

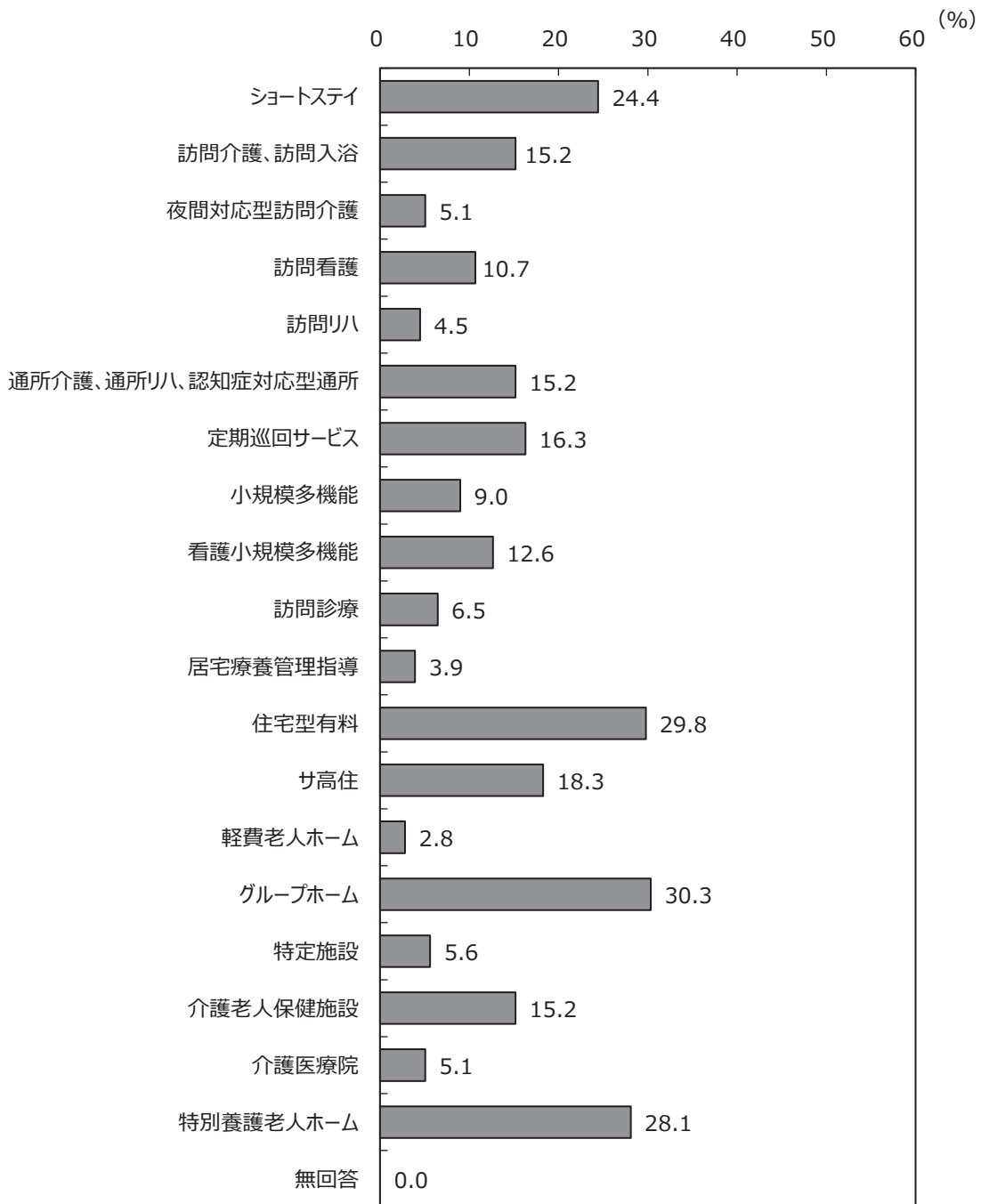
(12) より適切と思われる具体的なサービス

現状を改善できると思うサービスにおいて「サービス変更では改善は難しいと思う」以外を選択した場合

- 選択したサービス利用の変更について、本来であればより適切と思われる、具体的なサービスをお答えください

現状を改善できると思うサービスがある n=356

「グループホーム」が 30.3%と最も高く、次いで「住宅型有料老人ホーム」(29.8%)、「特別養護老人ホーム」(28.1%) の順に高くなっています。



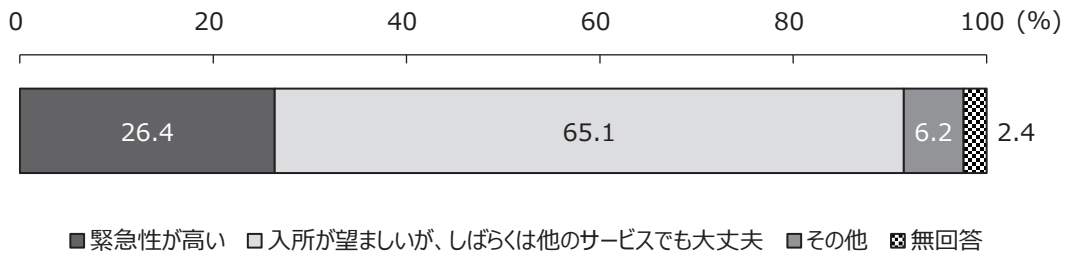
(13) 入所・入居の緊急度

具体的なサービスで住まい・施設等を選択した場合

■ 利用者の入所・入居の緊急度をお答えください

住まい・施設等を選択 n=292

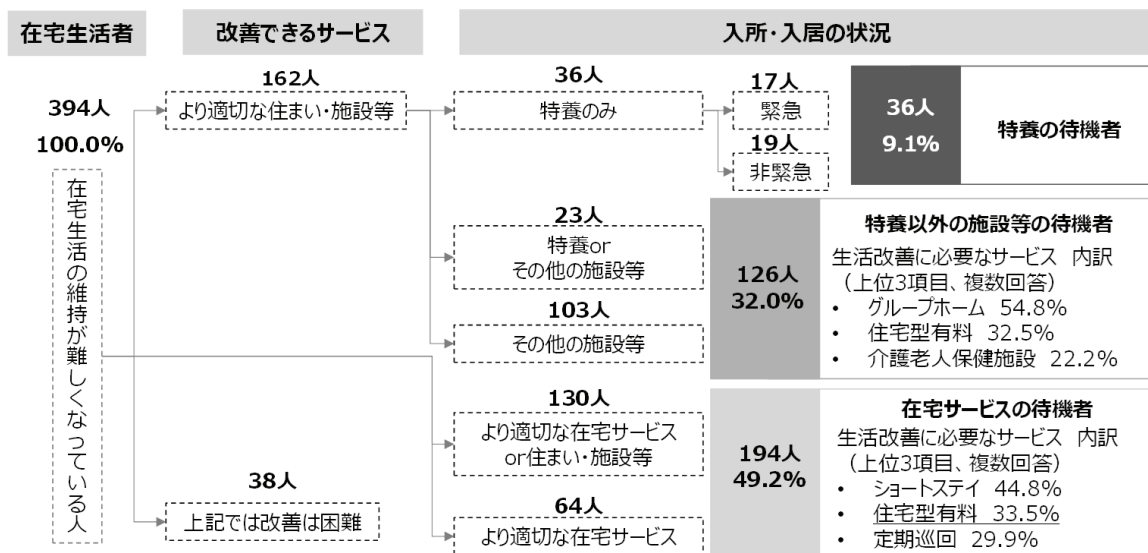
「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」が65.1%と最も高く、次いで「緊急性が高い」(26.4%)の順に高くなっています。



(14) 生活の改善に必要なサービス変更

(11) ~ (13) をまとめると、以下のようになります。

生活の改善に必要なサービス変更として、特別養護老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、グループホーム、ショートステイ、定期巡回サービスなどの利用が上位に挙げられています。



- \* 「より適切な在宅サービス or 住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類
- \* 「生活の維持が難しくなっている人」の合計 408 人のうち、上記の分類が可能な 394 人について分類 (分類不能な場合は「その他」に算入)

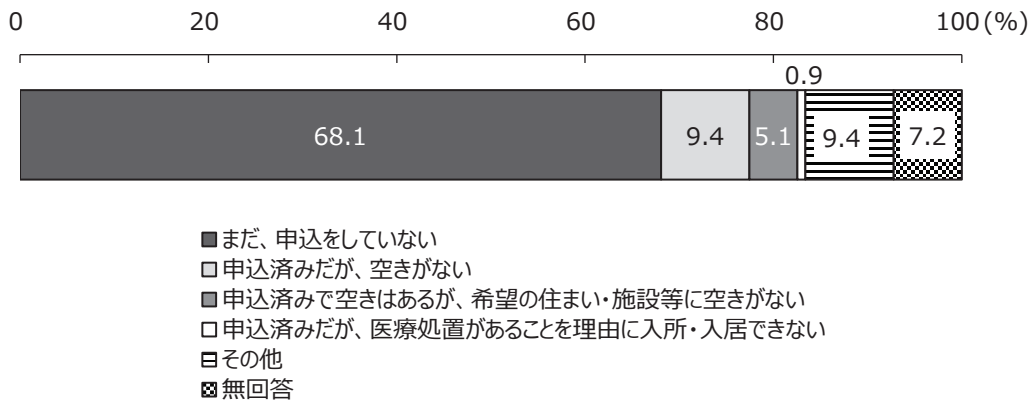
### (15) 入所・入居できていない理由

具体的なサービスで特別養護老人ホーム以外の住まい・施設等を選択した場合

#### ■ 入所・入居できていない理由をお答えください

特別養護老人ホーム以外の住まい・施設等を選択 n=235

「まだ、申込をしていない」が 68.1%と最も高く、次いで「申込済みだが、空きがない」(9.4%) が高くなっています。



### (16) 特別養護老人ホームに入所できていない理由

具体的なサービスで「特別養護老人ホーム」を選択した場合

#### ■ 特別養護老人ホームに入所できていない理由をお答えください

特別養護老人ホームを選択 n=100

「まだ、申込をしていない」が 45.0%と最も高く、次いで「申込済みだが、空きがない」(34.0%) の順に高くなっています。

